

## 経済学部 辻本勝久教授編著『しなやかで強い地域経済をつくる』出版記念インタビュー



### Q1 この本は、どのようなことをテーマに、どのような方に読んでいただきたい本でしょうか？

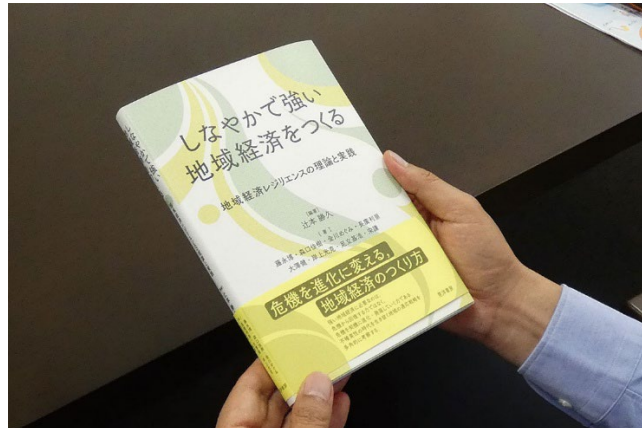
人口減少や高齢化、災害など地域を取り巻く変化の中で、「もう仕方がない」とあきらめるのではなく、「自分たちの地域をどう変えていけばいいのか」を考えるヒントを示す本です。観光、農業、商店街、交通など身近なテーマを通して、新しい可能性を生み出していく「まちの逆転ストーリー」を紹介しています。地域をもっと元気にしたいと考えるすべての人々、とくに高校生や大学生に読んでほしい一冊です。

### Q2 「地域経済レジリエンス」とは、簡単にいうとどのような考え方でしょうか？

災害や人口減少などの危機に耐え、元の状態に戻るだけでなく、変化に合わせて仕組みを柔軟に変えながら、より持続可能で活力ある地域へ進化していく力のことです。例えばローカル鉄道であれば、「赤字だからどう維持するか」だけではなく、「地域のためにどう生かすか」を考えることです。地域の仕事や産業、交通、人のつながりを組み直し、持続的に「稼ぎ、暮らせる」力を高めていくことが地域経済レジリエンスです。

### Q3 人口減少や気候変動など、不確実性が高まる今、なぜ「地域経済レジリエンス」が重要なのでしょうか？

人口減少や自然災害など不確実性が高まる中、「できるだけ無駄をなくし、安く、効率よく」という考え方だけでは想定外の事態に対応できません。そのため、「いざというときの余裕」や「別の選択肢」を持つておくことが重要です。地域経済レジリエンスは、地域の暮らしや経済を支える備えとして重要な考え方です。



**Q4 経済だけでなく、法、福祉、観光、農業、商店街、交通など、和歌山大学経済学部のあるさまざまな分野の先生方が執筆されています。こうした先生方が一冊の本に関わるようになった経緯や、分野横断でまとめる意義を教えてください。**

地域課題は、交通や福祉、商業、法制度などが複雑に絡み合っており、一つの専門分野だけでは解決できません。そこで、経済学部のあるさまざまな分野の教員が知恵を持ち寄り、多面的に地域の未来を考えるため、本書を共同で執筆しました。これが分野横断でまとめた大きな意義です。

**Q5 ご自身の研究や活動は、本書の内容にどのようにつながっていますか？**

私はこれまで、地域交通のあり方について研究・活動してきました。公共交通は人を運ぶだけでなく、地域の暮らしや経済を支える基盤です。一見すると「赤字」に見えても、健康や福祉、商業、観光、人のつながりなど、さまざまな面で地域を支えています。「交通をどう維持するか」だけではなく、「地域の変化に合わせて交通をどう生かしていくか」を考えることが、私の考える「地域経済レジリエンス」であり、本書のテーマにもつながっています。

**Q6 この本を通じて、どのようなことを考えてもらいたいですか？**

「身近にある、一見無駄に見えるものの価値」を考えてほしいです。地域の交通や商店街、人と人とのつながりは、社会の変化や危機に直面したときに暮らしを支える大切な存在です。この本が、地域の未来を考え、自分に何ができるかを考えるきっかけになればと思います。



**Q7 和歌山大学経済学部の魅力をお教えてください。**

和歌山大学経済学部の魅力は、「地域経済や公共政策の現場に飛び出して学べる環境」です。教室で学ぶだけでなく、地域の方々と対話し、課題解決に取り組む実践的な学びを重視しています。また、大学院博士後期課程の設置に向けた取り組みも進めており、地域づくりに関する実践的な知見を和歌山から世界へ発信する新たな挑戦も進んでいます。地域の未来を自分の手で考えてみたい学生にとって、地域そのものが学びの場になることが大きな魅力です。